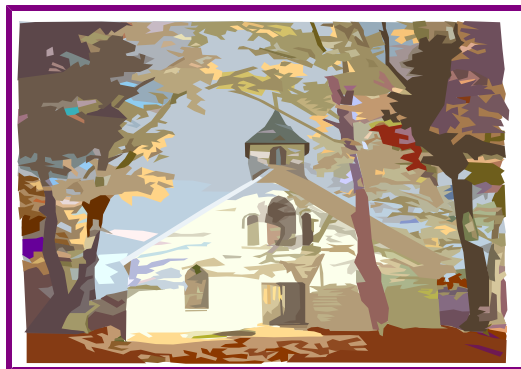


めぐみイエス・キリスト教会

2018年10月7日(日)第一主日礼拝
週報「通算第426号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

《「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、命を失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。』》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～6時45分
聖書研究・祈祷会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年10月7日(第一主日礼拝)

第一礼拝 午前10時～11時

司会・奏楽 鈴木竜実牧師

第二礼拝 午後6時～7時

司会 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌339「恵みの高き嶺」 p. 538

【交読文】 No.18 詩篇第50篇 p. 892

【賛美Ⅱ】 新聖歌344「なおも御恵みを」 p. 548

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.14 「み言葉に帰ろう」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書16章4節(新約p. 195)

【祈 禱】

【説 教】 《時が来れば思い出す》

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ヨハネの福音書16章4節)

16:4「しかし、私がこれらのことをあなたがたに話したのは、その時が来れば、私がそれについて話したことを、あなたがたが思い出すためです。私が初めからこれらのことをあなたがたに話さなかったのは、私があなたがたと一緒にいたからです。」

●ポイント1 「その時」とは？

※第一ペテロの手紙5章13節「ペテロのあいさつ文」 (新約p.421下段)

5:13 バビロンにいる、あなたがたとともに選ばれた婦人がよろしくと言っています。また私の子マルコもよろしくと言っています。

※使徒の働き12章12節「最後の晩餐が行なわれた所」(新約p.231上段)

12:12 こうとわかったので、ペテロは、マルコと呼ばれているヨハネの母マリヤの家へ行った。そこには大ぜいの人が集まって、祈っていた。

※マルコの福音書14章51節～52節「ゲッセマネの園で」(新約p.90下段)

14:51 ある青年が、素はだに亜麻布を一枚まとったままで、イエスについて行ったところ、人々は彼を捕えようとした。

14:52 すると、彼は亜麻布を脱ぎ捨てて、はだかで逃げた。

●ポイント2 「あなたがたが思い出すため」とは？

※ヨハネの福音書14章26節「助け主・聖霊によって」 (新約p.192下段)

14:26 「しかし、助け主、すなわち、父が私の名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、私あなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」

※ヨハネの福音書21章24節～25節「著者最後の言葉」(新約p.207下段)

これらのことについて証した者、またこれらのことを書いた者は、その弟子である。そして私たちは、彼の証しが真実であることを、知っている。イエスが行なわれたことは、他にもたくさんあるが、もしそれらをいちいち書き記すなら、世界も、書かれた書物を入れることができまい、と私は思う。

●ポイント3 なぜ思い出さなければならないのか？

※ヨハネの福音書12章48節～50節「終わりの日に」 (新約p.188下段)

※ヨハネの福音書14章23節～24節「私の言葉を」 (新約p.192下段)

14:23 イエスは彼に答えられた。「だれでも私を愛する人は、私の言葉を守ります。そうすれば、私の父はその人を愛し、私たちはその人のところに来て、その人と共に住みます。

14:24 私を愛さない人は、私の言葉を守りません。あなたがたが聞いている言葉は、私のものではなく、私を遣わした父の言葉なのです。」

◎先週のメッセージの概要【父をも私をも知らない者たち】

《イエス様は、ここで「これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがつまずくことのないためです。」と言われましたが、弟子たちはやがて、つまずくことになるのです。何にでしょうか。イエス様につまずくのです。信仰につまずくのです。しかし「つまずいた者」でなければ、つまずくことは、どのようなことなのか、分からないのです。失敗をした者でなければ、体験した者でなければ、二度とつまずくことのないように、心掛けることは出来ないのです。

つまずくことは、弟子たちだけとは限りません。私たちもつまずくのです。主イエス様をじかに知っていた弟子たちでさえつまずいたのです。

それこそ、主イエス様をこの目で見ること、その声を自分の耳で聞くことの出来ない私たちこそ、つまずきやすいと言っても良いでしょう。

次にイエス様は、

「人々はあなたがたを会堂から追放するでしょう。事実、あなたがたを殺す者がみな、そうすることで自分は神に奉仕しているのだと思う時が来ます。」と言われました。この預言は、ガマリエル門下で生粋のローマ市民であるサウロと言う青年によって成就し、エルサレム中に信徒への大迫害が起こりました。

「彼らがこういうことを行なうのは、父をも私をも知らないからです。」

ユダヤ教に、そして人一倍熱心に真理を求め続けていた青年サウロは、まことの神様を、救い主であるイエス様をも、何と知らなかったのです。それだからこそ弟子たちに、そして私たちには、使命が与えられているのです。

改心して、主イエス様の使徒となったパウロは、このように勧めています。『ユダヤ人とギリシャ人の区別はありません。同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求める者は、誰でも救われるのです。しかし信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。「良いことの知らせを伝える人々の足は、なんと立派でしょう。」』と。

私たちには、まことの「道」と「永遠の命」と「真理」が与えられています。》

◎お知らせ

1. 次回の礼拝は、10月14日(日)です。通常通り、第一礼拝は午前10時から、そして第二礼拝は午後6時から行ないます。
2. 次回の聖書研究・祈祷会は、10月10日(水)午後6時15分からです。